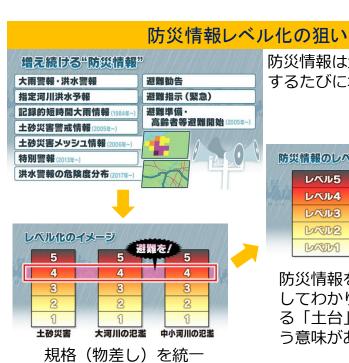


防災情報レベル化の内容

警戒 レベル	防災情報	住民の行動	
5	災害の発生	命を守る最善の行動	
4	避難勧告·指示	避難 (
3	避難準備の情報	高齢者など避難	
2	注意報	避難備え確認 🥟	
1	数日以内に警報級の可能性	心構え	

警戒レベルの低い方から

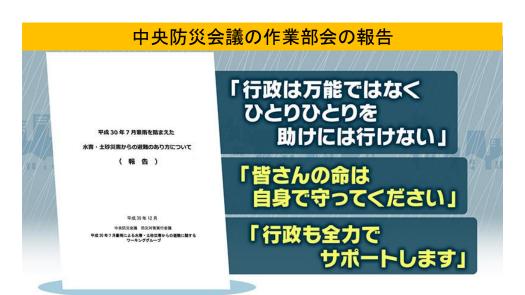
- ▼レベル1は、数日以内に大雨が予想される時
- ▼レベル2は、注意の呼びかけ
- ▼レベル3は「避難準備の情報」で、高齢者などは避難を開始する
- ▼レベル4は「避難勧告」や「避難指示」で、速やかに避難所に移動する、 直ちに命を守る行動をとる
- ▼レベル5は「災害の発生」で、命を守る最善の行動をする



防災情報は大きな災害を経験 するたびに増えてきました。



防災情報をあらためて整理 してわかりやすく体系化す る「土台」を示した、とい う意味があります。



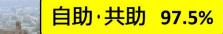
昨年相次いだ災害は、特に気象災害の激甚化がはっきり現われたものと言えます。もちろん防災情報の出し方、伝え方をはじめ行政側が取り組まなければならない課題はたくさんあります。一方、住民の側もメディアも気象災害のフェーズが一段あがったということを前提に、災害に向き合っていくことを求められています。

阪神・淡路大震災での教訓

生き埋めや閉じ込められた際の救助

(資料)「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」 (平成8年11月日本火災学会)より作成

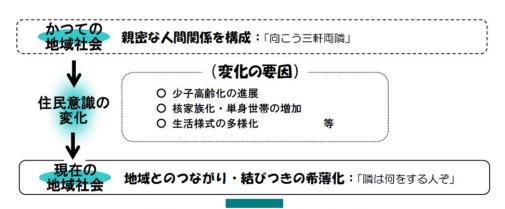
自力で	家族に	友人に・ 隣人に	通行人に	救助隊に	その他
34.9%	31.9%	28.1%	2.6%	1.7%	0.9%



公助 2.5%

自助・共助の重要性

希薄になりつつある地域社会の現状と求められる取組み

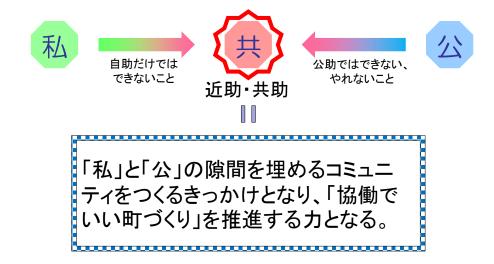


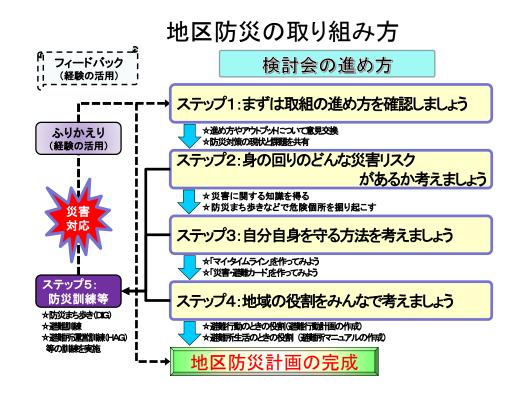
地域社会のつながり・結びつきの必要性を再認識し、 地域での自発的な取り組みの推進

安心・安全な暮らしを守る地域社会の形成

地域のコミュニティと防災

安全・防災は、さまざまな利害等の壁を超え、コミュニティ の核となり、求心力となり得る共通理念である。





検討の過程で

☑リスクを認識できる

- ・個人ごとの違いを認識できる
- ・災害ごとの違いを認識できる

☑逃げるタイミングが具体的にわかる

- ・いつ、どこへ
- ・ だれと一緒に
- ・どこを通って

☑コミュニケーションの輪が広がる

- 意見交換を通じて知り合いが増える
- ご近所とのつながりが強くなる

災害に強いコミュニティへ!

★マイ・タイムライン

☆災害・避難カード

☆防災訓練・イベント





マイ・タイムラインって何?

- ★事前に予測ができる大雨や台風などの風水害は、 発生前に避難することができます。
- ★避難のための行動を一人一人が事前に決めたものが、マイ・タイムラインです。
- ★一人一人、家族、自治会、地域で、それぞれ自 分の役割を含めたマイ・タイムラインを作って みましょう。
- ★安全・防災は、すべての人に共通の理念です。 コミュニティの核として、「協働でいい町づく り」を目指しましょう。

次の**①~⑤**の手順でマイ・タイムラインを完成させましょう!

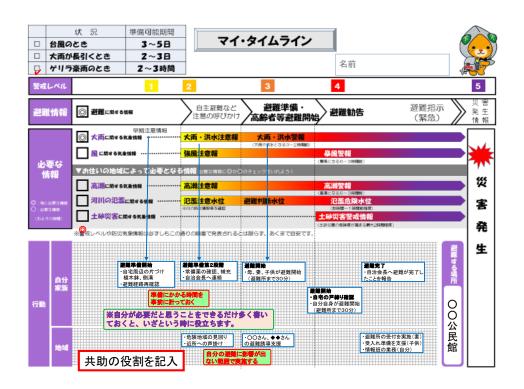
次のサ~もの子順でマイ・ダイムノインを元成させましょう!					
手 順	要領等	必要な情報等			
砂避難する場所を考える。	 ★ハザードマップなどを確認しながら避難する場所を決めて、記入しましょう。 ※災害の種類によって、避難する場所が変わることがあるため注意が必要です。 ※日中や夜間、平日か休日によっても避難する場所を検討しましょう。 ★浸水の深さから避難する場所を考える。 ※避難所へ、2・3階以上の建物へ、マンションの高層階の方は、自宅待機など ※自宅待機の場合でも長期間の電気等のライフライン途絶を考慮した備蓄や立退き(水平)避難の検討が必要です。 	・ハザードマップ			
②避難情報や気象情報から 報から 避難のタイミングを考える。	 ★避難準備 避難の準備を始めるタイミング ★高齢者等避難開始 移動に時間がかかる方は早めの避難を始めるタイミング ★避難開始 遅くともこの時には避難するタイミング ★緊急避難 最悪の状況を想定して、浸水しない階へ避難などの行動を考える。 	プッシュ型情報 ・防災行政無線 ・緊急エリヤタ全・安 ・「西条市届けメール」 など ブル型情報 ・市ホームページ ・アプリ「防災情報 さいじょう」 など			

手 順	要領等	必要な情報等
❸避難開始までの行動を考える。	★防災グッズ(持出用、備蓄用)の準備★常備薬を用意★災害時連絡先(親戚や自治会等)へ避難の時期、場所を通知 など★検討した結果を記入しましょう。	左の要領で示したこと以外にも、自分自身が必要だと思うことをどんどん記入してみましょう!
●避難準備の開始・ 避難開始・避難完 了の時期を決定す る。	★①、②、③で検討したタイミングを決定し、 記入しましょう。 以上で、自らの身を守るタイムラインは完成 しました。	
【ステップ3】 ⑤ 地域に対しての行動を考える。	*まずは自らの命を守ることが最優先です。 そのうえで、地域の助け合い(共助)について考えてみましょう。 *例えば、 ・避難行動要支援者(手助けが必要な方)について、「だれが」、「いつ」、「どのように」を決めておく ・近所への呼びかけの要領など *検討した結果を記入しましょう!	話し合いの中で、地域での役割をはっきりできたり、いざという時にお願いしやすくなるなどの効果があります。



避難することを一番に考えよう!

水害から命を守るためには、避難を選択することが大事です。
過去の災害の経験を継承する地域のコミュニケーション力がとても重要です。



- 「災害・避難カード」って何?
- ■自然災害による被害の軽減のためには、

住民自身による適時適切な避難がきわめて重要!

■避難すべき場所などをあらかじめ認識しておくための 仕組みとして「災害・避難カード」を作成する!



これらの情報を、水害・土砂災害等 災害種別毎に整理



地域の特性に合わせたカードを作成

名刺タイプ(携帯可能なサイズ)の災害・避難カード



避難場所や避難ルートを記したマップ形式の災害・避難カード





自分たちの命は、自分たちで守る



7月豪雨災害のとき、自分たちで作った地区防災計画により難を逃れた大洲市三善地区や松山市高 浜地区のように災害に強い地区づくりをめざしま しょう!